

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100180		
法人名	医療法人社団小羊会		
事業所名	グループホーム飯田		
所在地	山梨県甲府市飯田3-5-3		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年12月7日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みのある地域の一員として生活できるように支援するように心がけている。利用者様一人ひとりの生活暦・心身の状態や嗜好に合わせた援助に心がけている。また、四季折々の外出を通じ、季節の移り変わりや日常生活の変化を感じていただける生活の支援を行っている。元来 透析患者様の受け入れとしてGHを開所。現在、1名の利用者様を受け入れしている。透析の医師・看護師と密に情報を提供・共有して体調維持ができています。家族からも、信頼されている。食事・水分管理も行っている。看取りに関しても訪問医・訪問看護と連携をとり 看取り迄つなげている。地域との交流にも力を入れ、納涼会や避難訓練の際は地域の方の参加も呼び掛けている。又地域の行事にも(新年互例会、自治会の祭り)積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、甲府市の中央部に位置し、周りに病院や学校・商業施設があり利便性の高い住宅地にある。2階建ての1階にある事務所を挟んで、1番館・2番館と2つのユニットに分かれている。携帯電話で家族や友人と話す利用者、帽子や小袋の編み物をする利用者、読書が好きな利用者には書籍の提供等一人ひとりの今までの暮らしを継続出来る様に配慮して支援している。毎月のスタッフ会議は勉強会も兼ねて開催し、休みや勤務明けの職員も全員出席しているので支援の方向が統一出来ている。「利用者第一主義」の理念に添った支援を受けて、利用者は落ち着いた生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム飯田**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(一番館)	ユニット名(二番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者第一主義」の事業所理念を出勤時に必ず目に入るところに掲示し、理念を毎日確認し、仕事に望んでいる。	「利用者第一主義」の事業所理念を出勤時に必ず目に入るところに掲示し、理念を毎日確認し、仕事に望んでいる。	理念に「地域の一住民として共に生活し社会参加していく」を添えており、職員の目に入りやすい所に掲げている。利用者の対応に迷った時は、常に理念に戻って考えている。全職員参加の毎月のスタッフ会議や朝・夕の引継ぎ時にもその姿勢で対応方法を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、自治会長、民生委員にも事前にお知らせし参加して頂いている。地区のふれあいクラブ、新年互例会にも参加、地域の方と交流する機会を作っている。お祭りの時は子供みこしが来所され、入居者と交流している。	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、自治会長、民生委員にも事前にお知らせし参加して頂いている。地区のふれあいクラブ、新年互例会にも参加、地域の方と交流する機会を作っている。お祭りの時は子供みこしが来所され、入居者と交流している。	自治会に加入し、会議には施設長が参加している。新年互例会は、利用者も参加してお神酒やお菓子等を頂き交流の場になっている。地域のふれあいクラブは、2階のフロアを提供し、利用者も参加している。また、運営推進会議の折に事業所の行事を開催し、地域の方も参加している。日常の散歩の際には、住民の方と挨拶を交わし顔見知りになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員・愛育会の協力により、地区の老人会の皆様を招いて、講師による研修会の開催、工作等の交流会を実施しています。	民生委員・愛育会の協力により、地区の老人会の皆様を招いて、講師による研修会の開催、工作等の交流会を実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月の行事報告、利用者や家族からの要望、意見などを出して頂いている。また御家族同士の相談場所ともなっており、知見者の方からのアドバイス等を参考に利用者様の生活の向上に活かしている。	運営推進会議では毎月の行事報告、利用者や家族からの要望、意見などを出して頂いている。また御家族同士の相談場所ともなっており、知見者の方からのアドバイス等を参考に利用者様の生活の向上に活かしている。	会議は、奇数月の土曜日の午後開催しており、事業所の納涼会や敬老会等の行事と兼ねているので家族の参加が多く、活発な意見交換をしている。知見者として他のグループホームの管理者の出席もある。防災訓練の避難方法や事業所の周りの環境整備についてアドバイスをもらい参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護保険課の担当者や高齢福祉課の担当者とは日頃から連絡を取り合い、相談に乗って頂いている。運営推進会議録を提出に行く際や介護保険の更新時などは直接担当者としてコミュニケーションを図っている。	市役所介護保険課の担当者や高齢福祉課の担当者とは日頃から連絡を取り合い、相談に乗って頂いている。運営推進会議録を提出に行く際や介護保険の更新時などは直接担当者としてコミュニケーションを図っている。	市のボランティアセンターに依頼して行事の時などに訪問してもらっている。また、市から介護相談員が2か月に1度訪れており、その際に利用者の様子を伝えている。介護認定の更新時等には出向いて情報交換し、市とは良い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束の勉強会を行い、身体拘束にあたるケアとはどのような物が勉強している。外部の研修会にも参加し、職員個々に理解を深めている。	毎年身体拘束の勉強会を行い、身体拘束にあたるケアとはどのような物が勉強している。外部の研修会にも参加し、職員個々に理解を深めている。	毎月1回法人から研修資料が届き事業所内研修を実施しており、必ず1度は身体拘束についての勉強会を持っている。身体的な拘束はないが、スピーチロックについて気付いた時は「今の言葉は～の様に変えたらどうか」と具体的に助言し、スタッフ会議でも話し合い職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待の勉強会を行い、理解を深めている。また言葉による虐待(暴言、無視)には特に注意し、職員同士で不適切な言葉使いをしている時は注意し合っている。また利用者の身体チェックも起床、入浴時に行い、アザの有無なども確認している。	毎年高齢者虐待の勉強会を行い、理解を深めている。また言葉による虐待(暴言、無視)には特に注意し、職員同士で不適切な言葉使いをしている時は注意し合っている。また利用者の身体チェックも起床、入浴時に行い、アザの有無なども確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	法人研修や外部研修にて権利擁護、成年後見制度について理解を深めている。外部研修に参加して職員は施設会議にて報告し、情報の共有をしている。	法人研修や外部研修にて権利擁護、成年後見制度について理解を深めている。外部研修に参加して職員は施設会議にて報告し、情報の共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに、ホームの考えや取り組みの内容をきちんと説明。運営規定・重要事項等解り易く説明。不明な点が無いよう理解して同意を得ています。要望や疑問についても聞いております。	契約に至るまでに、ホームの考えや取り組みの内容をきちんと説明。運営規定・重要事項等解り易く説明。不明な点が無いよう理解して同意を得ています。要望や疑問についても聞いております。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(一番館)	ユニット名(二番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などの家族、利用者から出た意見はその後の個別対応や行事の内容に反映させている。職員全員に周知、出来るように施設会議の時に報告、検討している。	運営推進会議や面会時などの家族、利用者から出た意見はその後の個別対応や行事の内容に反映させている。職員全員に周知、出来るように施設会議の時に報告、検討している。	運営推進会議への参加を各家族に呼び掛けており、出席者が多い。管理者や計画作成担当者は、土・日曜日も出勤するようにして家族の面会時に話が出来る様に心がけている。外出先や室温調整等の個人的な要望や意見が多く出され、改善できるように対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は施設会議や年3回の面談時に職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。面談内容は福祉部代表に報告している。職員間の和が乱れない様に努めている。	管理者は施設会議や年3回の面談時に職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。面談内容は福祉部代表に報告している。職員間の和が乱れない様に努めている。	月1回のスタッフ会議と年3回の個別面談がある。買い物ノードで必要物品の購入希望が出せる。個人的な休みも勤務のシフト作成前に希望が出せるなど日常的に職員が自由に意見を言ったり相談できる機会が多く、業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回人事考課にて自己評価をする機会を作っている。自己評価に加え、管理者が評価する勤務姿勢や実績を賞与、給与に反映している。モチベーションアップにつながるよう職員個々に合わせた外部研修に参加するように薦めています。	年3回人事考課にて自己評価をする機会を作っている。自己評価に加え、管理者が評価する勤務姿勢や実績を賞与、給与に反映している。モチベーションアップにつながるよう職員個々に合わせた外部研修に参加するように薦めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自に応じた資格取得も含めて、学びの場を推奨。外部研修にも積極的に参加する機会を作っています。内部勉強会も計画的に毎月実践しています。	職員各自に応じた資格取得も含めて、学びの場を推奨。外部研修にも積極的に参加する機会を作っています。内部勉強会も計画的に毎月実践しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協議会に会員登録しており、定期的にグループホーム協会主催の研修会や、介護福祉士会、介護支援専門員協会主催などの研修など案内状を職員の休憩所に置き、希望の研修に参加できるよう勤務調整も行っている。	代表者はグループホーム協議会に会員登録しており、定期的にグループホーム協会主催の研修会や、介護福祉士会、介護支援専門員協会主催などの研修など案内状を職員の休憩所に置き、希望の研修に参加できるよう勤務調整も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や介護サービス事業所、病院などに訪問し本人から趣味や好物、要望などの聞き取りを行っている。また当施設の説明も行い、不安の軽減に努めている。	入居前に自宅や介護サービス事業所、病院などに訪問し本人から趣味や好物、要望などの聞き取りを行っている。また当施設の説明も行い、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族に施設に見学に来て頂き、要望、不安に思っている事等を聞き、ご本人にとって一番良いサービスと一緒に考える様にしております。	入居前に御家族に施設に見学に来て頂き、要望、不安に思っている事等を聞き、ご本人にとって一番良いサービスと一緒に考える様にしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から聞き取った情報や要望をもとに何が必要か見極め、本人に必要なホーム外のサービスも含め対応している。	本人や家族から聞き取った情報や要望をもとに何が必要か見極め、本人に必要なホーム外のサービスも含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と生活を共にし、喜びや悲しみも共有しながら、昔の知恵などを教えて頂きながら支え合い信頼関係を築いている。	職員は利用者と生活を共にし、喜びや悲しみも共有しながら、昔の知恵などを教えて頂きながら支え合い信頼関係を築いている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(一番館)	ユニット名(二番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の前には参加して頂けるように案内を送付したり、毎月の生活の様子を写真付きのお便りにつづり伝えている。面会時などにも日々の様子をお伝えし、対応に困っている事などは御家族と一緒に考え、ご本人にとって一番良い対応ができるように努めている。	行事の前には参加して頂けるように案内を送付したり、毎月の生活の様子を写真付きのお便りにつづり伝えている。面会時などにも日々の様子をお伝えし、対応に困っている事などは御家族と一緒に考え、ご本人にとって一番良い対応ができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅での生活に少しでも近づけられる様に家族、友人、親族などなたでの面会の時間に制限を設けていない。外食や買い物、お墓参りなど御家族の協力を得ながら外出の機会を設けている。	自宅での生活に少しでも近づけられる様に家族、友人、親族などなたでの面会の時間に制限を設けていない。外食や買い物、お墓参りなど御家族の協力を得ながら外出の機会を設けている。	会社の同僚や近所の人が面会に来たり、友人や家族と外食する利用者もいる。携帯電話を持っている利用者もあり、家族や知人と自由に話している。編み物で帽子や小袋を作ったり、習字、読書やハモニカを吹く等個々の利用者の入居前の趣味や生活が継続出来るような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々に性格、生活習慣も違う為、食事の席や外出時のメンバーなどはその事を踏まえ構成している。利用者同士手をつなぎ、歩行の手助けしてくれたり、食事介助をしてくれたりと利用者同士の助け合いを大切にしている。	利用者個々に性格、生活習慣も違う為、食事の席や外出時のメンバーなどはその事を踏まえ構成している。利用者同士手をつなぎ、歩行の手助けしてくれたり、食事介助をしてくれたりと利用者同士の助け合いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお手伝い出来ることは行い、入院中の方には見舞いを兼ね様子を確認し、主治医や看護師より状況を確認している。ホームに戻れない状況の時は受け入れ先の相談や情報の提供を行って経過を見守り、最後まで支援している。	契約終了後もお手伝い出来ることは行い、入院中の方には見舞いを兼ね様子を確認し、主治医や看護師より状況を確認している。ホームに戻れない状況の時は受け入れ先の相談や情報の提供を行って経過を見守り、最後まで支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションをとり、馴染みの関係を築き、本人の思いや希望を聞く機会を作っています。意向確認が困難な利用者にはご家族からの情報や生活歴などから情報収集し、本人の意向に沿えるようにしている。	日頃からコミュニケーションをとり、馴染みの関係を築き、本人の思いや希望を聞く機会を作っています。意向確認が困難な利用者にはご家族からの情報や生活歴などから情報収集し、本人の意向に沿えるようにしている。	朝の挨拶やテレビのニュース等を話題として声を掛け、気軽に話が出来関係づくりを心がけている。言葉に限らず利用者とのスキンシップを図りながら目・表情などからその時々利用者の思いを把握する様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人や家族、介護サービス事業所、居宅支援事業所のケアマネージャーなどから生活歴や趣味などの情報を収集しております。自宅での生活環境に近づけられる様に家具や馴染みのものも持参して頂き、生活環境を整えている。	入居の際には本人や家族、介護サービス事業所、居宅支援事業所のケアマネージャーなどから生活歴や趣味などの情報を収集しております。自宅での生活環境に近づけられる様に家具や馴染みのものも持参して頂き、生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活スタイルを基本に考え、その方の出来る事を把握している。ケース記録に毎日の様子を記入し、職員間でも情報の共有に努めている。一日2回申し送りを行い、本人の心身の状態を職員全員が把握している。	今までの生活スタイルを基本に考え、その方の出来る事を把握している。ケース記録に毎日の様子を記入し、職員間でも情報の共有に努めている。一日3回申し送りを行い、本人の心身の状態を職員全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度、もしくは状態に変化があった時などは担当職員がモニタリング、アセスメントを行い、家族からも意向を聞き、それをもとにカンファレンスを行っている。他の職員の意見も参考に介護計画の作成を行っている。	3ヶ月に1度、もしくは状態に変化があった時などは担当職員がモニタリング、アセスメントを行い、家族からも意向を聞き、それをもとにカンファレンスを行っている。他の職員の意見も参考に介護計画の作成を行っている。	入居時は、計画作成担当者が利用者・家族と面接し居宅のケアマネの情報を得て暫定プランを作成する。1か月後に再度アセスメントし、新しい介護計画を作成している。その後3ヶ月毎にモニタリングし、変化がある時はその都度カンファレンスを行い、必要な時は看護師・医師等の意見をもらう。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを個々のケース記録用紙に印刷し、プランがどの職員にも分かりやすく実践しやすいようにしている。気づきやいつもと違う様子は詳細欄に記入し、職員間で共有し、実践や計画見直しにも生かしている。	ケアプランを個々のケース記録用紙に印刷し、プランがどの職員にも分かりやすく実践しやすいようにしている。気づきやいつもと違う様子は詳細欄に記入し、職員間で共有し、実践や計画見直しにも生かしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(一番館)	ユニット名(二番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化時や家族の希望、ニーズに臨機応変に対応している。地域への行事参加や外出希望時などには柔軟に対応している。本人、家族より希望があれば訪問マッサージなどの手配もしている。	状態変化時や家族の希望、ニーズに臨機応変に対応している。地域への行事参加や外出希望時などには柔軟に対応している。本人、家族より希望があれば訪問マッサージなどの手配もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、愛育会など地域との交流も積極的に図っている。新年互例会やお祭りなどにも参加し、地域の方、子供達とも交流している。	自治会、愛育会など地域との交流も積極的に図っている。新年互例会やお祭りなどにも参加し、地域の方、子供達とも交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診について基本、家族対応だが、受診困難な利用者やご家族が希望された際には往診医を紹介している。受診の際には同行される家族にメディカル表を渡し、状況を説明している。往診時には職員が必ず同席し、日常の様子を医師に伝えている。	受診について基本、家族対応だが、受診困難な利用者やご家族が希望された際には往診医を紹介している。受診の際には同行される家族にメディカル表を渡し、状況を説明している。往診時には職員が必ず同席し、日常の様子を医師に伝えている。	かかりつけ医は、利用者各自が自由に選び現在事業所に往診してくれる医師は5名いる。その他歯科が週1回訪問している。また、希望者のみ訪問マッサージも受けている。受診も利用者や家族との大切な時間と捉えて基本的に家族対応をしている。その際はメディカル表を渡して情報交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していない為、主治医の指示にて訪問看護を利用する事もあり、来所時には職員が必ず立ち合い、状況報告や指示をもらい、その後の対応に活かしている。	看護師が常駐していない為、主治医の指示にて訪問看護を利用する事もあり、来所時には職員が必ず立ち合い、状況報告や指示をもらい、その後の対応に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを作成し、対応の仕方、注意点などを情報提供している。入院中も定期的に訪問し、本人様子を確認して、看護師より情報収集し、退院時に向け事前に準備をしている。	入院時にはサマリーを作成し、対応の仕方、注意点などを情報提供している。入院中も定期的に訪問し、本人様子を確認して、看護師より情報収集し、退院時に向け事前に準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合 本人・家族の意思を確認し終末期のあり方を、家族・医師・管理者を交え話し、事業所で出来る事を説明 今後の方向性を決め医療機関との連携・支援を行います。	重度化した場合 本人・家族の意思を確認し終末期のあり方を、家族・医師・管理者を交え話し、事業所で出来る事を説明 今後の方向性を決め医療機関との連携・支援を行います。	今までに看取り経験があり、入居時には事業所として看取り対応が可能である事を伝えている。そのための職員勉強会も年1回実施し、緊急時の対応も含めて勤務者が混乱しないようにマニュアルを作成してある。終末期も普段の生活の延長と考え、自然な形でケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応できるようトレーニングしており、外部研修にも参加。消防署の救護訓練参加しております。ADL設置 初期対応に利用できるようにしております。	緊急マニュアルに沿って対応できるようトレーニングしており、外部研修にも参加。消防署の救護訓練参加しております。ADL設置 初期対応に利用できるようにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定して年2回避難訓練を行っている。また、万が一に備え利用者や職員、地域の方が避難してきた時の為、水や食料、毛布などを備蓄しており、食料の賞味期限を確認し、定期的に入れ替えを行っている。	日中、夜間を想定して年2回避難訓練を行っている。また、万が一に備え利用者や職員、地域の方が避難してきた時の為、水や食料、毛布などを備蓄しており、食料の賞味期限を確認し、定期的に入れ替えを行っている。	火災・地震・水害の災害マニュアルは作成し、夜間を想定した訓練も実施している。夜勤者・地域の人・職員等名札を下げ順次駆け付ける訓練もしている。運営推進会議で地域に協力をお願いし、事業所の起震車体験には地域の方も参加した。訓練後は報告書を作成しスタッフ会議で検討した記録は、消防署に提出している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年1回プライバシーについて勉強会を行っている。トイレ時や入浴時等必ず扉を開ける際はノックをしたり、羞恥心に配慮した関わりをしている。不適切な言葉かけや対応など施設会議で話し合い、職員間で自分自身の対応を振り返る機会を作っている。	年2回プライバシーについて勉強会を行っている。トイレ時や入浴時等必ず扉を開ける際はノックをしたり、羞恥心に配慮した関わりをしている。不適切な言葉かけや対応など施設会議で話し合い、職員間で自分自身の対応を振り返る機会を作っている。	利用者は基本的には姓に「さん」付けで呼んでいる。入浴は同性介護に配慮している。プライバシーについての勉強会を行い、個人ファイル等は事務室内の目に触れない場所に置いてある。スタッフ会議では、「利用者第一主義」の理念に基づき、利用者一人ひとりを尊重した支援ができていくか意見交換している。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(一番館)	ユニット名(二番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者とコミュニケーションを図り、利用者が思いを伝えやすい関係作りに努めている。また意思表示の難しい利用者には「はい」「いいえ」で答えられるよう質問を工夫し関わっている。	日頃から利用者とコミュニケーションを図り、利用者が思いを伝えやすい関係作りに努めている。また意思表示の難しい利用者には「はい」「いいえ」で答えられるよう質問を工夫し関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事の時間など利用者の希望にそって対応している。入浴についても入りたい時に入浴できる様に入浴日、時間は決めずに午前午後の好きな時間に入れる様にしている。	起床、就寝、食事の時間など利用者の希望にそって対応している。入浴についても入りたい時に入浴できる様に入浴日、時間は決めずに午前午後の好きな時間に入れる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの洋服や化粧品、アクセサリなど家族に用意していただいたり、本人と一緒に買い物へ行き、好みの洋服などを購入できる様支援している。その人らしいおしゃれが出来る様に支援している。	本人の好みの洋服や化粧品、アクセサリなど家族に用意していただいたり、本人と一緒に買い物へ行き、好みの洋服などを購入できる様支援している。その人らしいおしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のおしぼり巻きや食後の下膳、洗い、拭きなど可能な限り利用者と一緒にしている。おはぎづくりや柏餅づくりなどは利用者に教えてもらいながら一緒に作っている。	食事前のおしぼり巻きや食後の下膳、洗い、拭きなど可能な限り利用者と一緒にしている。おはぎづくりや柏餅づくりなどは利用者に教えてもらいながら一緒に作っている。	業者から食材が届くがご飯と汁物と間食は事業所内で作っている。献立は、業者が作成するが、行事メニューや外食時は調整し、回転ずしやファミリーレストランで外食を楽しむこともある。その日の献立はリビングの白板に書いて、わかりやすくしている。おしぼり準備や配膳等は職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など毎食時チェック表に記入し、確認している。チェック表を確認しながら摂取量の少ない方には好みの物や食事以外での水分補給にて対応している。	食事量や水分量など毎食時チェック表に記入し、確認している。チェック表を確認しながら摂取量の少ない方には好みの物や食事以外での水分補給にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。声掛けのみで出来る方には毎食後声掛けしている。不足箇所は職員が仕上げをしている。義歯を使用している利用者は夜間、ポリドントにて洗浄、除菌をしている。	毎食後口腔ケアを実施している。声掛けのみで出来る方には毎食後声掛けしている。不足箇所は職員が仕上げをしている。義歯を使用している利用者は夜間、ポリドントにて洗浄、除菌をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導はせずに、排泄表を確認しながら一人一人に合った時間にトイレ誘導をしている。なるべくトイレで排泄できる様に座位が保てない方でも職員が支え、トイレでの排泄を促している。	定期誘導はせずに、排泄表を確認しながら一人一人に合った時間にトイレ誘導をしている。なるべくトイレで排泄できる様に座位が保てない方でも職員が支え、トイレでの排泄を促している。	排泄表や水分の摂取状況等を把握して時間を見計らいトイレ誘導している。一つのユニットに3カ所トイレがあり、介護度が高い利用者もいるが、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、ポータブルトイレやオムツの使用はほとんどない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には毎日ヨーグルトを提供し、水分もこまめに摂取して頂いている。毎日行っているフロア間の歩行や夕方の体操の時に身体を動かす機会を作り、便秘の解消に努めている。	便秘症の方には毎日ヨーグルトを提供し、水分もこまめに摂取して頂いている。毎日行っているフロア間の歩行や夕方の体操の時に身体を動かす機会を作り、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めずに、本人の入りたいタイミングで入浴できる様にしている。女性職員の介助を希望される方には女性職員が対応し、入浴を楽しんで頂けるように支援している。	入浴日や時間は決めずに、本人の入りたいタイミングで入浴できる様にしている。女性職員の介助を希望される方には女性職員が対応し、入浴を楽しんで頂けるように支援している。	1週間を通して日中の入浴はいつでも可能である。入浴を拒否された場合は、時間をずらしたり翌日にまた声かけする等工夫して気持ちよく入浴してもらえる様にしている。個別に体に保湿剤等のクリームを塗っている利用者もいる。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(一番館)	ユニット名(二番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ、食後など休息を希望される方には休む時間を作っている。またその日の体調にあわせ、臥床時間を調整している。昼夜逆転傾向の方には日中活動的に過ごせるよう関わる時間を多く作り、夜間の安眠に繋げている。	本人の生活習慣に合わせ、食後など休息を希望される方には休む時間を作っている。またその日の体調にあわせ、臥床時間を調整している。昼夜逆転傾向の方には日中活動的に過ごせるよう関わる時間を多く作り、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のメディカル表に服用している薬や、外用薬が記載されており処方変更があった時はメディカル表の訂正と個人のケース記録の特記、申し送りノートにも記入し職員は周知している。服用時には飲み込みまで確認している。	個々のメディカル表に服用している薬や、外用薬が記載されており処方変更があった時はメディカル表の訂正と個人のケース記録の特記、申し送りノートにも記入し職員は周知している。服用時には飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやごみ集め、洗濯たたみ等個々に役割がもてるように支援して、生活歴から趣味や楽しみ事などを情報収集し、自宅と同じように趣味活動ができるように環境を整えている。	食器拭きやごみ集め、洗濯たたみ等個々に役割がもてるように支援して、生活歴から趣味や楽しみ事などを情報収集し、自宅と同じように趣味活動ができるように環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクや買い物など本人の希望があった時は一緒に外出している。地域の行事にも参加し、受診時などにはご家族と外出の時間が作れる様に外食などの提案をし、家族にも本人の希望に沿った外出ができる様に協力をしていただいている。	外出レクや買い物など本人の希望があった時は一緒に外出している。地域の行事にも参加し、受診時などにはご家族と外出の時間が作れる様に外食などの提案をし、家族にも本人の希望に沿った外出ができる様に協力をしていただいている。	月ごとに外出担当職員を決めて外出の計画を立てている。桜や芝さくらの花見や動物園やぶどう狩り等に出かけている。個人的な外出希望は受診時などを利用して家族に依頼する事もある。気候の良い時期は、事業所の周りを散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布の管理をされている方には買い物支援時支払が出来るよう見守りを行っている。事務所で管理している方で支払いやお釣りの受け渡しが可能の方は外出支援時見守りで支払いをされる方もいる。	ご自分で財布の管理をされている方には買い物支援時支払が出来るよう見守りを行っている。事務所で管理している方で支払いやお釣りの受け渡しが可能な方は外出支援時見守りで支払いをされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は自由に家族や友達に電話し、会話を楽しんでいる。電話してほしいと希望される方には事務所の電話で家族に電話をかけるように支援し、事務所カウンターにも公衆電話を設置し、いつでも利用できる様にしている。	携帯電話を持たれている方は自由に家族や友達に電話し、会話を楽しんでいる。電話してほしいと希望される方には事務所の電話で家族に電話をかけるように支援し、事務所カウンターにも公衆電話を設置し、いつでも利用できる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の移り変わりが感じ感じられるようにフロアには大きな窓があり、いつでも外を眺められるような環境となっている。季節の飾りや写真を掲示し、施設内にも四季を感じられるように努めている。室温にも気を付け、利用者にも暑さ、寒さを確認しながら空調の調節をしている。	季節の移り変わりが感じ感じられるようにフロアには大きな窓があり、いつでも外を眺められるような環境となっている。季節の飾りや写真を掲示し、施設内にも四季を感じられるように努めている。室温にも気を付け、利用者にも暑さ、寒さを確認しながら空調の調節をしている。	玄関は、きちんと整頓され事務所窓口の横に職員の名前と写真が貼ってある。廊下の壁には行事の写真がまとめて飾ってあり、利用者の日常の様子が伺える。明るいリビングには、利用者の作品や花が飾ってあり本棚には本が置かれゆったりとしたくつろぎの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルには軽作業や趣味活動ができるように一人ひとりゆったりとしたスペースが確保してある。畳スペースもあり、疲れたときに休めるようにクッションや布団も用意している。	フロアのテーブルには軽作業や趣味活動ができるように一人ひとりゆったりとしたスペースが確保してある。畳スペースもあり、疲れたときに休めるようにクッションや布団も用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人が使い慣れた家具や馴染みの物を持って来ていただけるようお願いし、基本的には自由に居室を使っていたるように配慮している。寝具もベッドに限定せず布団で休みたい方には布団で対応している。	入居時には本人が使い慣れた家具や馴染みの物を持って来ていただけるようお願いし、基本的には自由に居室を使っていたるように配慮している。寝具もベッドに限定せず布団で休みたい方には布団で対応している。	エアコン・カーテン・大きなクローゼットが事業所で用意してある。使い慣れた草蓆や椅子等が置いてあったり、大きな鉢植えの花が幾つか置いてある等各自の自由な居室づくりが出来ている。1階なので外に植えてある花壇や野菜が窓から見えて心が安らぐ。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はすべてバリアフリーになっており、居室は畳の部屋もあり、あえて段差のある部屋でADLの維持に役立っている。居室には氏名の他花の名前と絵で分かりやすく自分の部屋が分かるようになっている。	館内はすべてバリアフリーになっており、居室は畳の部屋もあり、あえて段差のある部屋でADLの維持に役立っている。居室には氏名の他花の名前と絵で分かりやすく自分の部屋が分かるようになっている。		